

新港第1～第2突堤間における

水域活用計画

新港第1～第2突堤間における水域活用計画

2022年3月発行

編集・発行
神戸市

電話：078-595-6306
FAX：078-595-6284


神戸市広報印刷物登録 令和3年度 第652号
(広報印刷物規格A-1類)



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

City of Design
KOBE 

Member of the UNESCO
Creative Cities Network
since 2008

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



令和4年3月
神戸市港湾局

1. 水域活用の基本的な考え方

民間活力を活用し、ウォーターフロント・エリア全体の魅力と賑わいを持続的に向上させる水域活用を図り、賑わいと交流の拠点となることを目指す。

(1) 人々で賑わい、憩い、くつろげる空間を創り出す

- 水域を囲むように、ホテル、フードホール、劇場型アクアリウムなど魅力的な施設が既に立地しており、2024年には1万人規模のアリーナも開業する予定である。
これら集客施設をプロムナードなどでつなぎ、開放的で気軽に回遊できる空間を生み出し、水域を借景として、市民や観光客など、誰もが気軽に立ち寄り、滞在し、そして再び訪れたいような空間を創り出す。
- 新たに整備する波除堤は、ビューポイントの機能を持たせ、フォトジェニックな空間とすることを検討する。
- 本計画地を活動区域とする都市再生推進法人・株神戸ウォーターフロント開発機構が中心となり、公共空間などを利活用することで、エリアの魅力・活力を高めるためのエリアマネジメントを推進し、全体として公共の利益の増進を図る。

(2) 水域を活用し、高質なみなどの景観を創り出す

- 都心に近接する貴重な立地を活かして、民間活力を活用しながら、訪れる人を魅了する高質な空間を創り出す。
- 水域の活用は、民間ならではの発想・ノウハウ・民間資金を最大限活用することとし、サウンディング型市場調査をふまえ、具体的には水上レストランや、マリーナのほか、周辺施設等と連携したイベント利用が想定される。
 - 水上レストランなどの設置やイベント利用は、周辺に立地する施設と連携をとりつつ、ブランド価値向上につながるものとし、エリア全体の賑わいを創出する。
 - マリーナは、国内外の動向や、近隣の利用状況等をふまえ、中型～大型クルーザーを中心とし、ブランド価値向上につながるものとする。スーパーヨットと呼ばれる、超大型クルーザーにも対応できるよう、ビジター機能も検討する。
- ブルーカーボンなどCO2の吸収源となる取組みや、賑わいと交流の拠点を生み出す多様な機能についても検討し、水域全体を最大限有効に活用する。

(3) 安全に水域を利用する

- 神戸港第1区水域は、中突堤地区の旅客船ターミナルや、新港突堤のフェリーターミナル、官公庁船溜まりが存在し、旅客船や遊覧船、業務船などが利用する水域である。
水域の活用にあたっては、関係者で連絡体制を構築するなどし、周辺水域利用者等と意見を交換しながら、安全な航行の確保に努める。

2. 魅力と賑わい向上に向けた水域の活用

(1) 親水空間の創出

- 緑を配置したプロムナードやカフェスペースの設置などを通じて、水域と一体となる空間を創出し、市民や観光客が周辺のホテル・レストラン・アリーナなどを楽しみながら快適に回遊できる空間として活用
- 昼間は水域や広がる海を借景として、夜間は周辺施設が創り出す夜景やポートタワー・海洋博物館のライトアップなどを借景として、人々が足を運びたい、そして賑わい・憩い・くつろげる空間として活用

(2) 水面活用

<賑わい創出>

- 環境に配慮し、環境学習の場を提供するとともに、各種イベントの開催を通じて海に親しみを感じてもらえる空間として活用
- 水上レストランなど、都心に近接した水域を最大限に活かした施設が使用する空間として活用

<船舶係留>

- 中型～大型のクルーザーを中心とした船舶係留や、ビジター棧橋など一時使用のために使用する空間として活用
- 水上交通の利用や、貸切クルーズなど気軽に楽しめるレジャー等にも対応

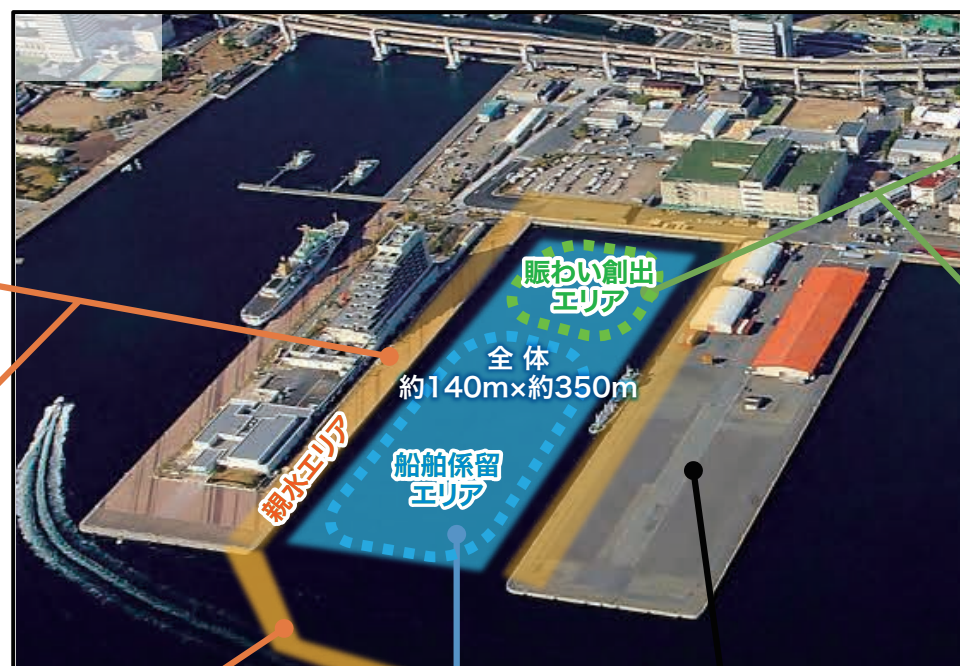
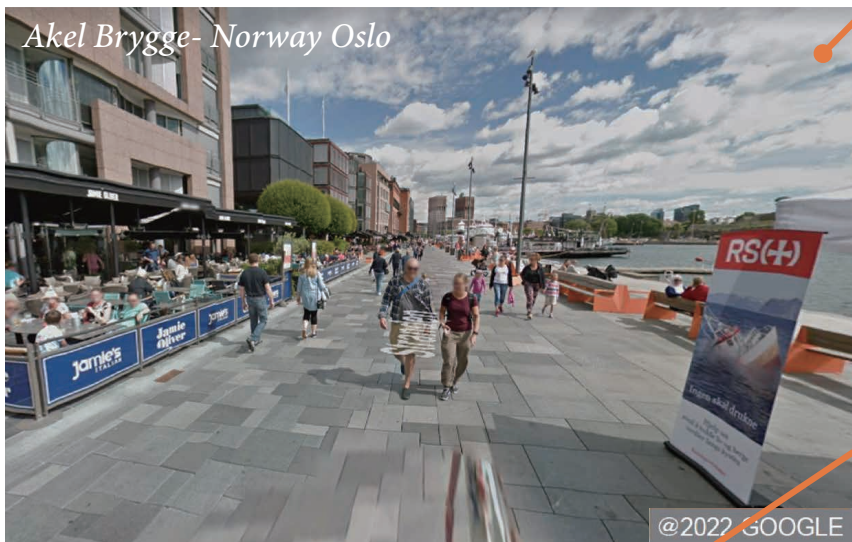
水域活用のイメージ



※上記方向性をふまえ、民間活力を最大限活用した提案を求め、事業者を選定する。

水域活用の方向性 ~水域活用のイメージ~

親水エリア



賑わい創出エリア

